

私は私でありたい

私はクラス、いや学校の中に、見えない決まりのようなものがあると思います。それは、先生が決めたルールとかではなく、なんとなくできていって、社会階級みたいなものです。例えば、いつも教室の真ん中で話している人達、よく話しかけられる人達、逆に名前すら知られていない人達。そういうのを身近では、「スリーリスト」と呼ぶそうです。

正直、私も気にしていません。たとは言えませんが、この人と仲良くしたら変に思われるかもとか、あのグループにいた方が安心だとか、無意識にそう考えていました。特に、体育の授業のペア決めや、新学期に決める給食のペア、係のペアなど、自分たちで決める場面では、目に見えない力が働いていたり、ように感じます。誰と組むか、それによってクラスでの自分の立ち位置まで決めるように

な気がして、気を使っ
てしまいうこともあり
ました。

ある日、いつも一人
でいるような子とたま
たまペアを組むことが
ありました。最初は、
ちよつと気まずいなと
思っていたけれど、そ
の子と話してみたら、
意外と趣味があつたり
して楽しかったのです。
その日からほぼ毎回
のように10分休憩に
集まつて、好きな子
1人イストさんとか、
好きな歌について話
していいました。そこ
でも好きなことが似
ていてうれ

しかつたのを今でも
覚えています。でも、
授業終わりのトイレで、
なんであの子とつるん
でるの? と言われて、
私は愛想笑いをする
ことしかできず何も
言い返せませんでした。
そのとき、私は人を見
た目や階級で決めつけ
ていたこと、そして、
それに流されていた自
分がとても恥ずかしく
なりました。

その出来事があつて
から、私は少しずつ考
え方が変わりました。
仲良くなることで、
誰かの許可がいるわけ
ではないし、どんな人

とだって話してみないとわからない。なのに
自分の中に勝手なイメージがあって、それだ
けで相手を遠ざけていたんだなと気づきまし
た。相手のことをよく知らないまま、この人
はこういう人、って決めつけていたのは、自
分だったんだと思いました。
よく耳にする、みんな違う、みんないい、
という有名な詩があります。でも、実際の学
校生活では、みんなと違うこと、バカにさ
れたり仲間はずれにされたりすることもあり
ます。「普通じゃない」と言われることが怖
くて、自分を隠してしまおう人もいると思いま
す。私も実はそうでした。本当は好きなもの
や考えていることがあっても、変に思われた
くない、とか、バカにされたくない、と思っ
て言えなかったことが何度もあります。「ス
クールカーズ」という言葉は、なんだか笑
ってすませられるように聞こえるけど、そこ
には「差別」や「偏見」が隠されているよう
に私は思えます。それは、人として大切に

される権利が奪われていることと同じではないかと感じました。

そして、こういう空気は大人になってもな
くならないのかもしいれないと最近思うように
なりました。たとえば、テレビで会社の話を
しているニュースや、誰でも簡単につぶやけ
るSNSを見ていると、この人は上司に好
かれているからとか、あの人は空気が読
めないと思われているからなど、人間関係
係によって扱われ方が変わるような話が出て

きます。会社でも、仲のいいグループや
話しかけづらい人がいて、その中で階級
を気にして行動することがあると聞くと、学
校とそんなに変わらないんだなと思いました。
つまり、スクールカーストのようなもの
は名前は違っても、大人になってもからの社
会の中にもあるのかもしいれません。そう考え
ると、今のうちに自分はどうありたいか
を考えることがすごく大事なんだなと感じま
した。誰かを下に見たり、自分勝手な解釈で

「この人とは関わらない方がいい」と思っ
 た。リするのは、人権を大切にしているとは言
 えないと思いません。人はそれぞれ違っ
 て、誰にだっ
 ていいところや、知らなかつた一面があ
 るはずで
 す。

これからは、私はまず自分自身に自信を持
 ち、勇気を出して話したことがない人と
 も話すようにしたいです。最初は緊張するけ
 ど、それがきっかけで何かが変わるかもしれ
 ません。そして、自分の中にある「この人は

こういうタイプ」という決めつけをなくして
 いきたいです。関わって初めてわかるこ
 とが多いし、自分の世界を狭くしていたのは
 自分だっ
 たと気づいたから
 です。

人はみんなそれぞれ個性を持っ
 ているし、完
 璧な人間なんていません。だからこそ、
 一人ひとりをちゃんと見て、人によつて態度
 を変えるようなことをせず、みんなに同じよ
 うに接することができる人でありたいと思
 います。